

五ヶ所参り（5つの寺巡り）

四国遍路ルートには全部で八十八ヶ所のお寺があり、徳島県には最初の二十三ヶ所のお寺があります。その内、13 番から 17 番のお寺が徳島市にあります。巡礼を体験したい人は、この 5 つの聖域を巡る「五ヶ所参り」を体験することができます。ルートの長さは 8 キロ弱で、急な坂道もない為、一日で気軽に巡る事ができます。

5 つのお寺は、673 年から 816 年の間に創建されたと推定されています。しかし、何世紀にもわたって、建物は戦や火災で破壊され、再建され続けました。その結果、各寺院が所蔵する仏像や神体は、歴史的な時代が混在していることを表しています。

お寺は仏教の異なる宗派に属し、異なる本尊を持っていますが、全て空海（774-835; 死後、弘法大師として知られる）と関連されます。彼は四国遍路の中心人物です。

隣県の香川県で生まれた空海は、人生の中で僧侶の道を歩むことを決意しました。四国遍路にまつわる彼の話が多く存在しています。彼の死後、僧侶達は彼の足跡をたどるために四国を訪れるようになりました。江戸時代(1603-1867)には、庶民が病気の治療や信仰の表明、観光目的の為に遍路をするようになりました。

五ヶ所参りのお寺を訪問すると、定番の巡礼服に身を包んだ人々の姿を見かけることがあります。誠実さと清らかな心を表す白装束や、身を守る伝統的な菅笠、杖などが含まれています。しかし、このように格好をすることは必須ではなく、何名かの訪問者は、通常のハイキング用の服等を着用しています。